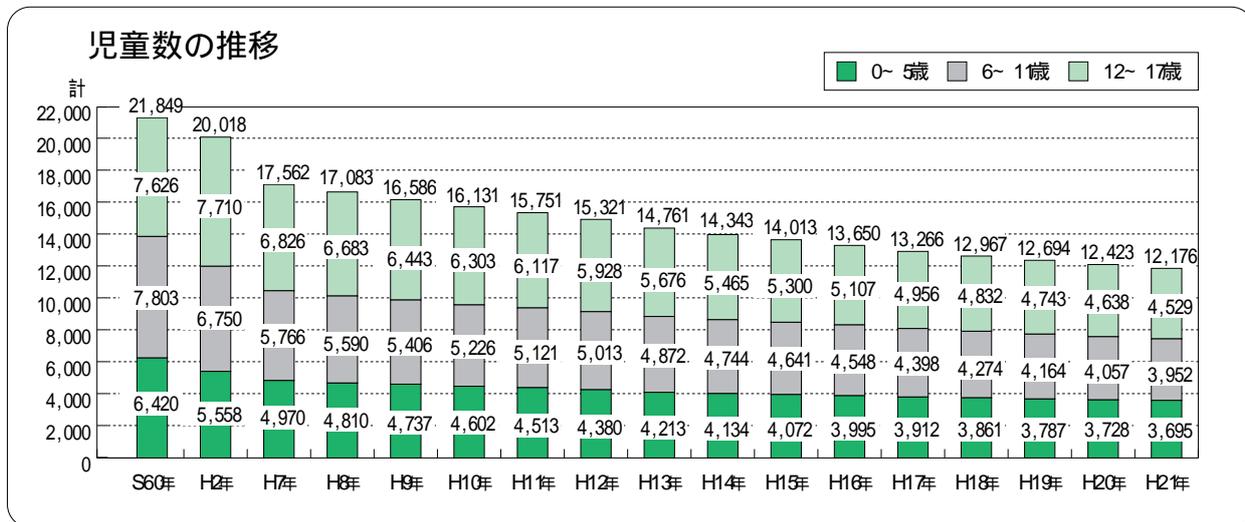
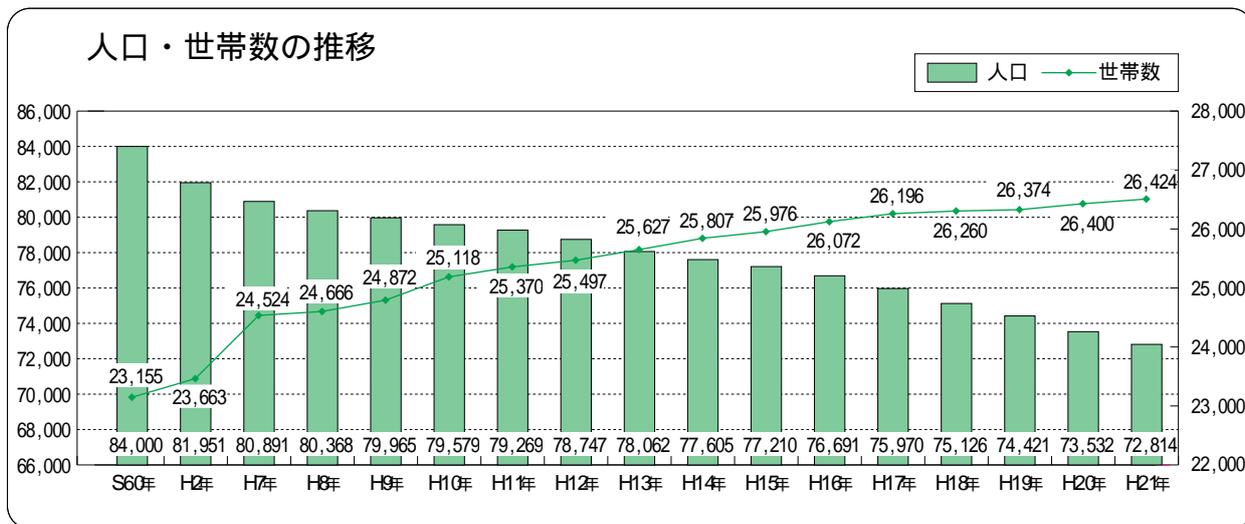


1. 人口及び児童人口等の推移

(1) 人口の推移

日田市の人口は、昭和30年（国勢調査 99,948人）をピークに減少傾向に転じて、平成2年4月は72,814人となっています。反面、世帯数は年々増加傾向にあり、核家族等の増大現象が現れています。

児童人口も減少傾向を示しており、人口割合からみても、著しい少子化傾向を示しています。



人口比率

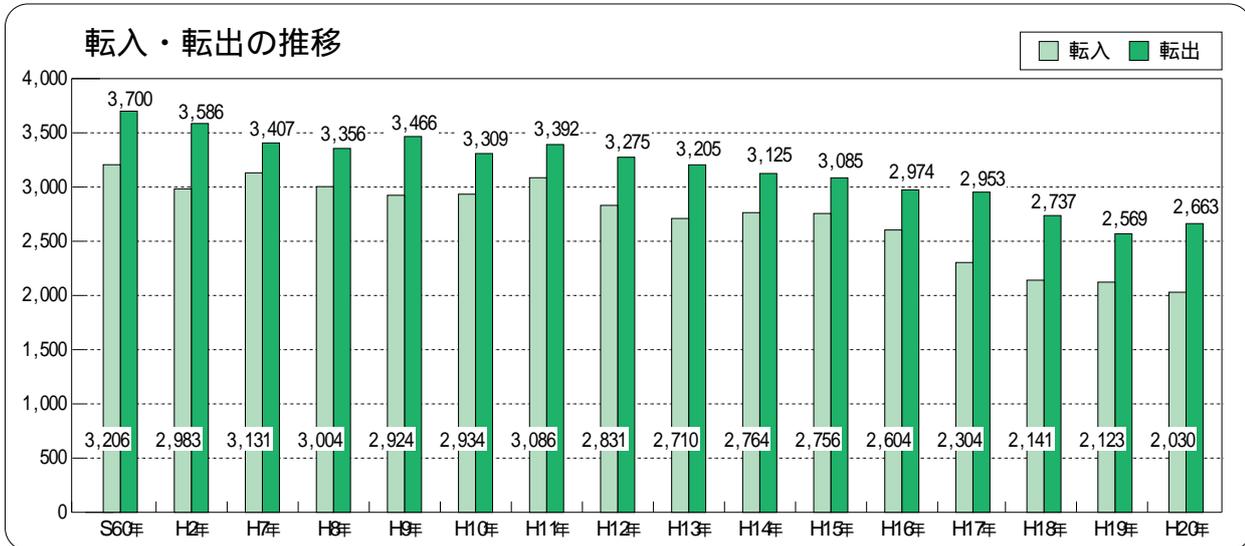
(資料：住民基本台帳 各年3月31日現在)

区分	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
0～5歳人口比率	5.3%	5.2%	5.1%	5.1%	5.1%	5.1%	5.1%
6～11歳人口比率	6.0%	5.9%	5.8%	5.7%	5.6%	5.5%	5.4%
12～17歳人口比率	6.9%	6.7%	6.5%	6.4%	6.4%	6.3%	6.2%

(2) 人口動態の推移

a. 転入・転出

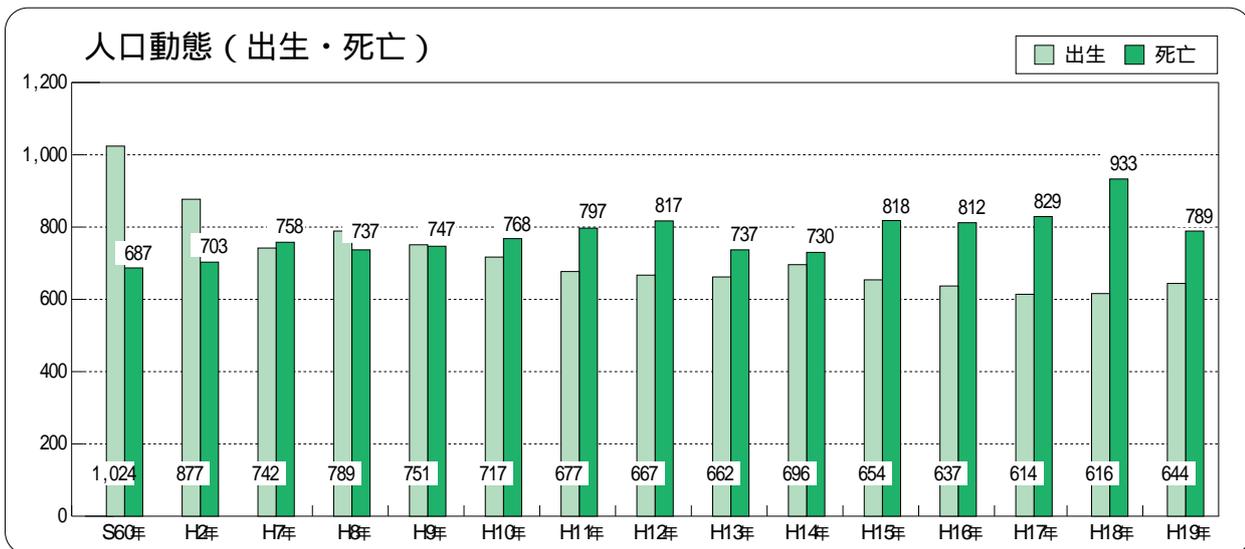
本市の人口動態は、例年、転出数が転入数を上回る社会減を続けています。



(資料：大分県毎月流動人口調査報告)

b. 出生・死亡

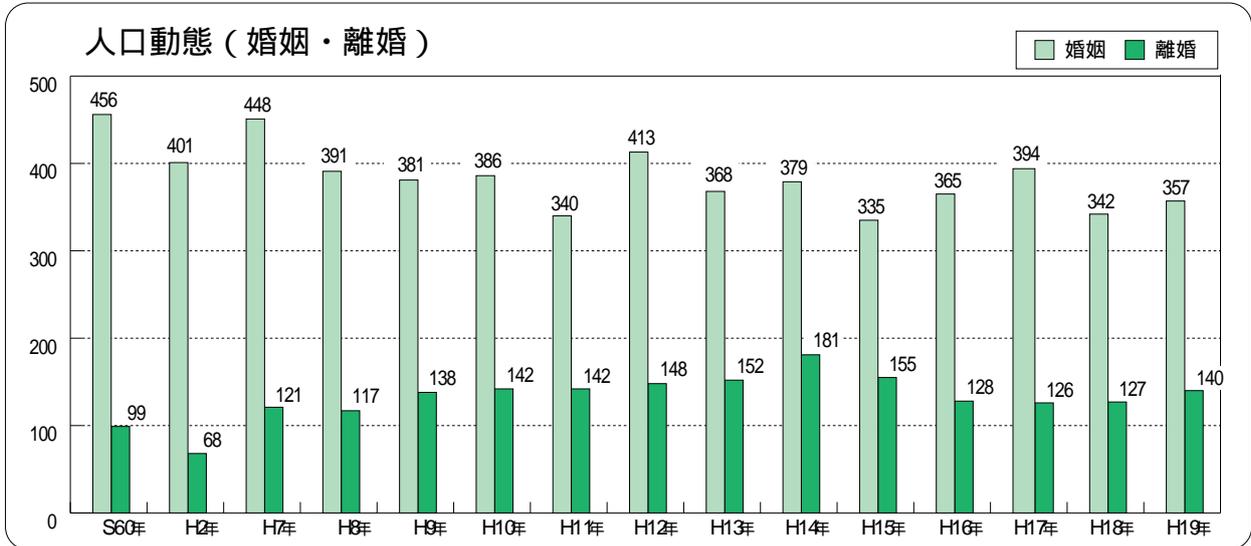
出生・死亡においては平成9年までは出生数が死亡を上回っていましたが、平成10年から逆転に転じており、自然減の現象も加わり人口減少が進むものと危惧されます。



(資料：大分県統計年鑑)

C . 婚姻・離婚

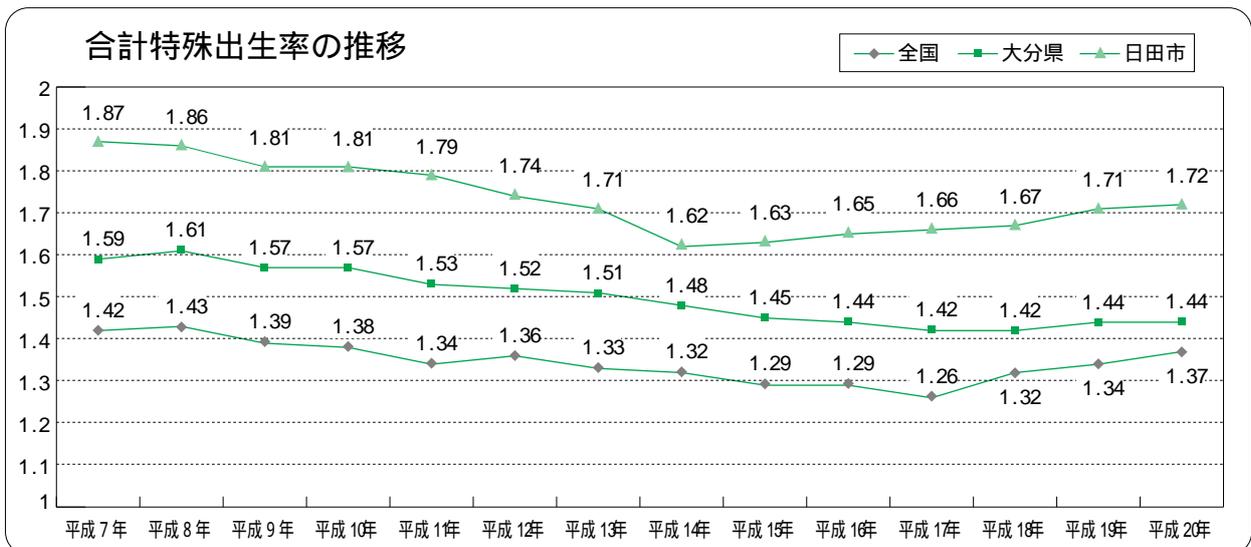
結婚・離婚については、離婚数が増加傾向に有り、母子家庭等に対する子育て支援や自立支援のニーズが高まる傾向にあります。



（資料：大分県統計年鑑）

（3）出生率の推移

本市の合計特殊出生率は、全国・大分県よりも高い率を推移していますが、少子化の傾向を反映して平成8年以降減少を続けています。平成17年以降では、増加傾向にありますが、現在の人口を将来的に維持できる水準とされる2.07人を大きく割り込む状況です。また、平均初婚年齢は「晩婚化」の傾向にあります。



（資料：保健所報）

合計特殊出生率：15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に産むとしたときの子ども数に相当します。全国は単年より算出、大分県と本市は5年間の平均で算出しています。

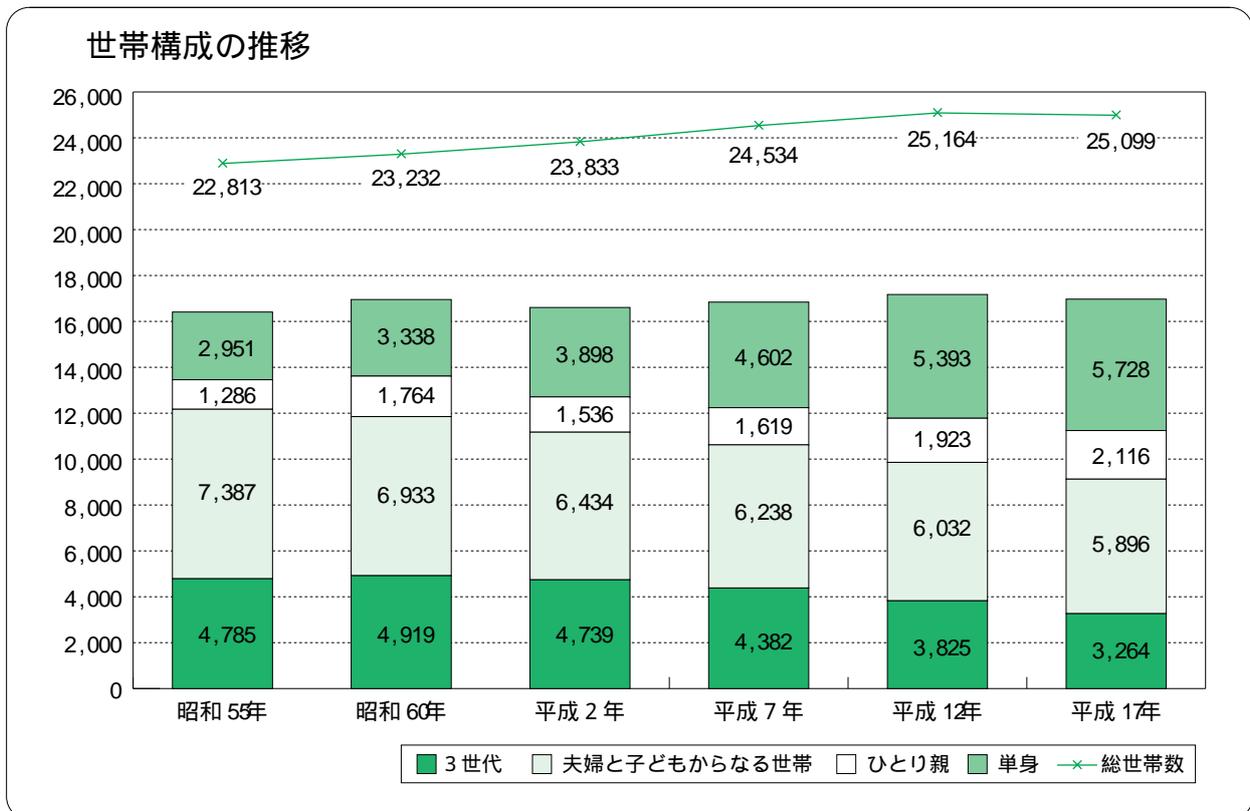
大分県における平均初婚年齢

区分	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成7年	平成15年	平成20年
夫	27.2	26.4	27.9	28.2	28.8	29.7
妻	24.5	24.4	25.4	26.2	27.4	28.1

(資料：大分県公益衛生年鑑)

(4) 世帯構成の推移

昭和55年から平成17年までの世帯構成の推移をみると、世帯数は増加していますが、世帯類型別では「3世代」「夫婦と子どもからなる世帯」が減少し「ひとり親」「単身」が増加しています。



(資料：国勢調査)